

## はじめに

### 【宇宙から来た女の子と赤鬼ゴンちゃんとの約束】

あるところに、プリプリッとした、まんまるい魂を輝かせながら、

ほかの星から地球に遊びにやって来た、

異星人の女の子がおりました。

その女の子は、地球で遊びながら、

ほかの星や自分がいた星のお友達とも、

ずっと楽しく交信を続けていました。

でも、地球で遊んでいるうちに、その異星人の女の子には、  
少しずつ異変が起きてきました。



地球のあちこちに仕掛けられている、ネガティブな感情が巻き起こす、暗黒と絶望の魔法にかかってしまい、

少しずつ心が歪んでしまつて、

キラキラしていた魂も弱っていききました。

それだけではありません。

プリプリキラキラしていた魂の周りには、

トゲトゲした小さな角つるのようなものまで生えてきて、

女の子の姿もそれと同じように、少しずつトゲトゲに

なり始めました。

さらに、そのトゲトゲの先っぽからは、

毒針のようなものまで出てきて、

ニコニコハッピーだった異星人の女の子の姿は、

時々、怖い怪物さんのようになることもありました。

怪物さんのようになっている時の女の子は、

地球で仲良くなったお友達に、



怪我をさせてしまうことも増えていきました。

姿も怪獣さんみたいに変身してしまふようになった、

その異星人の女の子は、

地球で遊ぶことが、もうぜんぜん楽しくなくなってしまうました。

そして困ったことは、

それだけではありませんでした。

トゲトゲになることが増えれば増えるほど、

ほかの星のお友達や、

自分の星との交信も出来なくなりました。

故郷の星と交信が出来なくなった女の子は、

自分がどの星からやって来たのかわからなくなり、

だんだん悲しくなっていました。

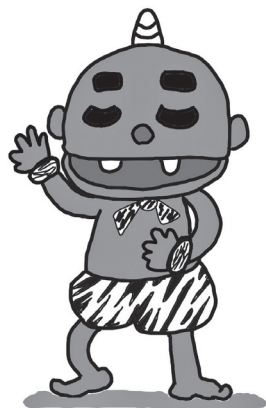


異星人の女の子…どうして私はこんなことになっちゃったんだろう？

どうやったら元のプリプリのキラキラの魂に戻れるんだろう？

そんなある日、しょんぼりしている異星人の女の子のそばを、ニコニコ笑って鼻歌を歌いながら散歩していた、ゴンちゃんという赤鬼さんが通りかかりました。

ゴンちゃんは赤鬼だけど、ちっとも怖い感じがしませんでした。



赤鬼ゴンちゃん

赤鬼ゴンちゃん…こんにちは♪ ボクは赤鬼のゴンっていうんだ。

鬼だけど、みんなを笑顔にするお仕事をしているんだよ。

おやおや？ 君はどうしてそんなにしょんぼりしているの？

異星人の女の子…地球で遊んでいるうちに、プリプリのキラキラだった魂のまわりが、真っ

黒のトゲトゲになってしまったの。そしたら、ほかの星や自分の星とも、

交信ができなくなっちゃったの。

赤鬼ゴンちゃん.. なあんだ、そんなことか? ボク

も昔、君みたいになつたことがあつたんだよ。でも今は元通りに戻れたんだ。

異星人の女の子.. どうやってたら元に戻れるの?

赤鬼ゴンちゃん.. それはね、心をお掃除するんだよ。

異星人の女の子.. お掃除?

赤鬼ゴンちゃん.. そう! 心の中をどんどんお掃除して、

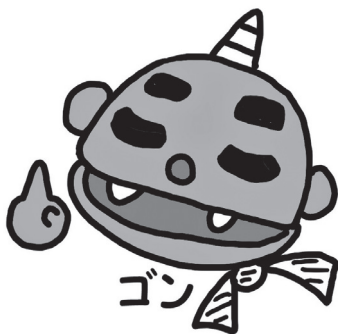
ピカピカの透明にするんだ。

そしたらちゃんと、元の自分に戻れるんだよ。

異星人の女の子.. でも、どうやってお掃除するの? どう

やって透明にするの?

赤鬼ゴンちゃん.. それはね、暗黒トラップとは逆の、地球のもう一つの仕掛けをたくさん



見つけ出すことがお掃除になるんだ。

異星人の女の子..地球のもう一つの仕掛け？

赤鬼ゴンちゃん..そうさ。地球には、ネガティブな

感情の仕掛けと一緒に、『愛や優

しさや温かさの仕掛け』も、あち

こちに組み込まれているんだ。でも、ネガティブな感情が湧くたびに、

その刺激と仕組みの方ばかり探求していると、すべてが暗黒と絶望に

しか見えなくなる魔法にかかっちゃうんだ。君はその魔法にかかってし

まってるのさ。

異星人の女の子..じゃあ私は、まず何をすればいいの？

赤鬼ゴンちゃん..それはね、これからはずっと、愛と優しさで温かさの仕掛けの方を、地

球でたくさん見つけるぞ！ って決心をして、毎日それを実行するのさ。

君は長い間、暗黒トラップの探求をちよっと楽しみ過ぎちゃっただけな

んだ。だから今度は、それとは逆の探求をすればいいんだよ。愛と優し



さと温かさが詰まってるいろんなことを、毎日あちこちに発見している  
と、心や魂のまわりの真っ黒が自動的にキレイにお掃除されて、ピッカ  
ピカの透明になるんだ。そしたら、トゲトゲも一緒に消えて、元通りの  
プリプリのキラキラの魂に戻るんだよ。ほかの星や自分の星との交信  
だって、復活するんだよ

異星人の女の子..私にできるかな...自信ないな....。

赤鬼ゴンちゃん..大丈夫！ 君なら必ずできるよ！ 焦らなくていいから、ゆっくり見っ  
けていってごらんよ。だって、触れ続けた者の命をもおびやかしかねな  
い、負の感情という暗黒のトラップを、誰よりも深く探求しながら、今  
まで無事に生き延びてきたなんて、逆にスゴイよ！ 奇跡的だよ！ そ  
んな君なんでもん、暗黒トラップとは真逆の仕掛けを見つけるのだって、  
絶対できるに決まってるさよ

異星人の女の子..なんだか、勇気が出てきたよ。希望が湧いてきたよ。プリっプリのキ  
ラッキラのピッカピカの透明な魂に、戻れそうな気がするよ

赤鬼ゴンちゃん..暗黒トラップの魔法は、油断していると、地球で遊んでいる誰もがかかっ

てしまうんだ。けどね、暗黒トラップの影響を受けずに、楽しく遊んで地球人もたくさんいるんだよ。

異星人の女の子.. そうなんだあ。

赤鬼ゴンちゃん.. 地球を楽しんでいる彼らは、愛と優しさで温かさだけを、ずっと探求し続け

るぞって決心して、地球で遊んでるんだ。そんな地球人は、君の近くにもたくさんいるはずだよ。彼らを見つけてごらん。見つけたら、ほかの暗黒トラップの魔法にかかっている人にも、彼らの存在を教えてあげるといいよ。そうすると、透明に戻るのが、ますます速くなるんだよ

異星人の女の子.. うん！ 見つける！ 愛と優しさで温かさを探求し続けている人を見て、そんな彼らのことを、ほかのみんなにも教えてあげるよ

赤鬼ゴンちゃん.. じゃあもう大丈夫だね！ そういえば君、名前は何ていうの？

異星人の女の子.. 私の名前は、カノン♪

赤鬼ゴンちゃん.. カノンちゃんかあ。じゃあカノンちゃん、またどこかで会おうね！ そ





して、その時はいろんな報告を聞かせて  
ね！ 透明な魂に戻って、地球をとこと  
ん楽しんでね〜

異星人の女の子カノンは、赤鬼ゴンちゃんとの大切な約  
束を交わして別れました。そして約束通り、暗黒トラッ  
プの魔法を解くべく、愛と優しさで温かさの探求を続け  
ました。さらに、暗黒トラップの魔法にかかっていない、  
魂が無事なまままで光輝いている地球人を探す旅にも出  
ました。

そしてカノンは、そんな地球人を見つけ出すことが出  
来たのです。さらに、その中から二人を選んで本に書  
くことを決め、ほかの地球人達にも、その二人の存在  
を伝えることにしました。

つづく。



……ということ、

この本は、

異星人の女の子カノンが見つけた、

ある関西人二名様のことについて書いた、

報告書のような本である。

### お二人をご紹介するその前に

『智に働けば角が立つ。情に棹さふさせば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。(中略)人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向こう三軒両隣にちらちらする唯ただの人である。唯の人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか寛容くわんようで、束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ』

(夏目漱石『草枕』より抜粋)

草枕のこの一節は、長年の私の心境そのものだった。

この世に生まれてきたからには、有意義な人生を送りたいものである。だがこの地球生活での人間関係というのは、正直言って面倒くさいものだ。なるべく他者とはかかわらず、自分のことなどほっといて欲しいと思っても、誰かとかかわらなければ、生きてはいけない。

相性やタイミングに恵まれていれば、人間関係も快適だ。しかし、常に快適さが続くわけではない。自分にとって好ましくない相手もいれば、物事のタイミングが合わずに不快な思いをすることもある。そしてその不快さは、次第に積み重なって**邪気**を生じさせ、いつの間にかおのれの一部と化してしまふものだ。

自分の考え方や行動を意識的に変えれば、不快さは解消されるだろう。だが、たとえ一時的に解消されても、またどこかで別の誰かとの間に、新たな不快を体験することになる。

ああ、この世とは、なんと面倒くさいところだろう。右を見ても左を見ても、暗黒トラッ

プの魔法にかかった、邪気混じりの人間だらけ。妬み、嫉み、ひがみ、やつかみ、憎しみ、恨みつらみ、被害妄想、負の過剰反応と、並べ出したらきりが無い。

しかし、私はある日、暗黒トラップの魔法にかかっていない、邪気とは無縁の人間と遭遇したのだ。邪気がないと言っても、乳児ではない。遭遇したのは、邪気のない大人だ。

大人になっても邪気が無い地球人など、なかなかいるものではない。邪気がないというのが言い過ぎなら、**邪気を活性化させないタイプの地球人**とでも表現しておこう。邪気におのれを巢食わせず、邪気を活性化させず、大人になるまで無事に生きてこれている無邪気な地球人を、私は関西で二名ほど発見したのである。

そして今回のこの本は、暗黒トラップの魔法にかかっていない、関西で見つけた無邪気な地球人二名様のことを、皆様にご紹介するために書いた本なのである。

笑顔で生きていれば邪気がないかというと、そうとは限らない。愛想も人当たりも評判も良く、他者を警戒させないような人間でも、腹の中は真っ黒だったなんてことはよくある話だ。

邪気で魔物化したような人間が、そこかしこにいるこの世の中。しかし、そんな地球に立ち寄ったのも、何かのご縁というものだ。人間とかかわるのは面倒くさいが、怖いもの見たさの好奇心をフル稼働して、なんとかこの惑星を生き抜くしかない。

人知のおよばない宇宙の創造主様か何か、細部にまでこだわって、丁寧にお創り下さっているこの地球。どんな裏事情があつて、こんな面倒くさい人間界をお創りになられたのだか知らないが、生きづらい不満を漏らしたつて始まらない。人間界がややこしければややこしいほど、ルパン三世にでもなつたつもりで飄々と、軽快かつエレガントに、生き抜いてやるしかないのだ。

……というわけで、皆様お待たせ致しました。お待たせし過ぎたかもしれません。登場からいきなり、地球生活の面倒くささについて、さんざん悪態をついておりました私ですが、この本の執筆を担当させて頂く、鬼ヶ島かのと申します。

そうです！ たとえ相手が初対面の地球人であろうと容赦なく、いつでもどこでも、気に入らないヤツを舌先三寸で惨殺すると言われた『毒舌辻斬りの邪気観音』という異名を持つ、あの伝説の、知る人ぞ知る、知っている人でも知らないフリをしたくなる、その私

でございます♪（誰やねん）。

今回は、無邪気な地球人二名様を、この本を通してご紹介させて頂く使命のために、参上した次第でございます。

この度の使命をまっとうするために、長年磨き上げてきた舌刀ぜつとうは喉の奥に丸め込み、邪気も毒も体内から抜けるだけ抜きまくって、ナイアガラの滝で禊みそぎも済ませた、そんな清らかなおのれになったつもりで（つもりかい！）、真心を込めまくった言葉を、好き放題書き散らかしますので、どうぞ安心してお読み下さいませ。

あらためまして、この度は、この本を手に入れて下さり、誠にありがとうございます。好奇心でお買い求め下さったのか？ はたまたお付き合いで無理やり買わされたのか？ は存じませんが、いずれにせよ、これも何かのご縁でございます。せっかくご縁があったのですから、読み終わるまでは、私の間わず語りに、しばしお付き合い頂きたく、お願い申し上げます。

## まずは筆者の素性をザックリと自己紹介

自称、通りすがりのおせっかいやきな異星人。そんな私が地球に降り立ち、人間のフリをしながら生まれ育った場所は、海に囲まれた離島の町。そして非常に神様色の豊かな環境でもあった。生家は禅系の仏教、通った幼稚園はカトリック、名付け親は真言密教のお坊さんで、高校では先輩に連れていかれたプロテストントの日曜学校を毎週手伝わされることになり、そもそも生まれ育った町自体がこれまた、隠れキリシタン（潜伏キリシタン）で有名な地域。しかも、長崎の出島が出来るよりも古く、約四五〇年以上も前にはすでに、オランダやポルトガルからの外国船が、頻繁に訪れていたところだったと言われている。私がよく、ヨーロッパ系の血が入った人間に間違えられることが多いのも、そういういた歴史的な背景があったためなのだろうと推測する（知らんけど）。おまけに、現在ではヨーロッパでも途絶えてしまっている、古い時代のラテン語の祈りの歌（グレゴリオ聖歌）とやらが、四五〇年以上前から、原型のまま口伝で残っている地域ときたもんだ。これは、世界文化遺産に登録された、他の潜伏キリシタン関連遺産のどこにも残されていない、貴重な文化遺産なのらしい（地元ど真ん中の話題でありながらメディアを通じて聞きか

じり♪)。ちなみにこの古い聖歌は、女性指揮者Nさんによって、数年前にバチカンのサン・ピエトロ大聖堂で復元演奏されよみがえり、聞くところによると、枢機卿も大司教も神父たちも口々に「これは東洋の奇跡だ！」とおっしゃられたのだとか（我が手柄ではないが地元民として私も嬉しい）。しかもこの女性指揮者Nさんご自身のご先祖様（曾祖母様）が、私の地元の隠れキリシタンの一人だったという、出来すぎなぐらいの物語付きなのだ。その一連のことは、さまざまなメディアでも取り上げられている。

そんな神様色のディーブな環境で幼少期を過ごした私の、神様エピソードはこれでは終わらない。波乱万丈の果てに結婚した相手の男性が、なんとこれまた神道家の宮司さんときたもんだ。別に自分の今回の人生を、神様がらみの盛り合わせにしておいてくれなんて、宇宙に注文した覚えはない。だが、とにかく祈りのバリエーション豊富な環境で、人生を送ってきた身なのである。そのうえ、自称通りすがりの異星人というだけあって、幼少期から地球外生命体だか、宇宙の別次元の存在だか何だかと、チマチマ交信なんでもしているものだから、周囲から変わり者扱いされていたことは、言うまでもない。

そして、長かった独身時代のお仕事関係はといえば、履歴書一枚にはおさまりきらないほど、さまざまな職業を経験する。ここでそれらを一つ一つ取り上げることは省略させて



頂くが、当時まだ地球生活にアレルギー反応を抱えていた身にとっては、どの職場も職業も、ストレスと喜劇のバリエーションであった、とだけ言っておこう。

しかしそんな中でも、印象深い仕事先がいくつもある。それは、地球生活に抵抗や生きにくさを感じていた若かりし頃の自分に、人間界を強く生き抜くために必要な要素が何かを、嫌というほど思い知らせてくれた職場だ。なんの因果か私は、時代を牽引し世間を騒がせた、さまざまな有名人たちのもとを、うっかり渡り歩いてしまっていたのだ。

ある時は、天才テレビ演出家兼プロデューサーと呼ばれていたT氏の下で。またある時は、時代を象徴し社会現象にもなった、当時世界最大級といわれた、あの有名遊興施設Jの創設者O氏の下で。またある時は、戦後日本最大の汚職事件といわれて世間を騒がせた、就職情報誌発行会社Rの会長宅に、ご家族から某お役目をおおせつかって出入り……ヴヅ（言えないことが多過ぎるので言葉を濁しておく）。とまあ、ほかにも数えきれないほど濃い現場を渡り歩き、地球酔いしながら千鳥足で働きまくって現在に至る……という感じだ（若干まだ嘔吐中……）。

今振り返れば、若かりし当時の私は、人間の生々しい欲・野心・野望というものに対して、まだ免疫が備わっていない、フワッフワの宇宙っ子状態。しかし自分が地球にやって

来てしまったことを自覚し、このひたすら面倒くさい人の世を、強く生き抜くために必要な感覚が何かを学べたのも、世間を騒がせた彼らとの縁があつたからだ、今は感謝している（それでも思わなければ経験のすべてが無駄になる）。

とにかく、そんなこんなで、幕場まで持つていかなきゃならないことも多く抱える身ではあるが、たとえ人相も愛想も悪く、心身が汚血まみれの古傷だらけでも、筆者はけつして怪しい者ではございませぬゆえ、どうかご安心あれ♪（汗！）

